



由木城址に立つ大石定久像

永林寺裏の由木城に大石定久公没後四百三十三回忌の記念として銅像が建っている。大石定久と太田道灌はよく似ている。道灌は主家の扇谷上杉定正により殺された。定久は北条氏照に家督を奪われ、腹かき切つて死んだといわれている。兩人ともに、主家のため誠心誠意尽くしたが報われることはなかった。

時は、下刻上の世であった。裏切りと権謀術数こそが求められたのだろうか。太田道灌も大石定久も、戦国大名になることなくこの世から消えていった。

大石定重、定久父子を高月城に訪れた禅僧がいる。万里集九（ぼんりしゅうく）だ。漢詩文集「梅花無尽蔵」（ばいかむじんぞう）巻六「万秀斎詩序」に、「武蔵国守護の家臣に、木曾義仲十代の子孫・大石定重がおり、武蔵国二十余郡を掌握している」との記述がある。定重はやがて滝山城を築城し、本拠を移転。そして定久の時代へと移っていくことになる。

## ◇散歩のみどころ

野猿街道の殿ヶ谷戸バス停から、越野・柚木界隈の凡そ4kmの行程。

バス停から北へ細い参道を上ると御獄神社である。戻って野猿古道を東へ少し歩くと永林寺に着く。大石氏縁りの由木城址は墓地の上である。野猿古道に戻り、下柚木バス停の先を左の道へ折れて暫く歩くと、南北朝時代に法印賢海が開いた玉泉寺がある。更に寺の横を登った所に日枝神社がある。神社から道へと戻り、直ぐ左側に越野会館がある。ここは導儀寺跡の近くで、聖観音菩薩像が安置されている。会館を出て南に暫く歩き、野猿街道の駐在所バス停から大栗川を渡る。由木中学校の南隣りが富士見台公園である。見晴らし塔や古代遺跡を復元した休憩所、トイレなどが完備されている。公園東側の農道を行くと、市指定の天然記念物サルスベリがある大石宗虎屋敷跡に出る。下柚木バス停で解散。

## ●由木の地名考

七世紀前後、日本最初の統一政権である大和朝廷が畿内地方を中心に栄えていた。神仏に供える白妙の原料の楮（コウゾ又はユウ）の木を集めるインデン部という役所があった。多摩地方にも役所がおかれていたと考えられる。この地では、和紙を作るこの楮（ユウ）の木がいたる所に生えていた。ユウの発音からいつしか由（ユウ）となり、由の木が多くあることから由木といわれるようになった。

## ●関東の戦国時代

室町時代、幕府は京都に置かれ、通称「花の御所」といわれていた。関東が手薄になるため、鎌倉に鎌倉府を置いた。京都にいるのが將軍、鎌倉にいるのが鎌倉公方（くぼう）ということになる。

初代將軍は、足利尊氏。初代公方

は弟の足利基氏（もとこうじ）である。將軍と公方は、仲が悪かった。永享十一年（一四三九）、將軍と公方の間で永享の乱と呼ばれる大合戦もあった。

八代將軍足利義政は、自分の子政知（まさとも）を公方として鎌倉へ送り込むが、鎌倉へ入ることが出来ず伊豆の堀越にとどまった。これが堀越公方だ。これまでの公方成氏（しげうじ）は下総の古河へ逃げ出して古河公方となり、関東を支配する公方が二人になった。

この公方を補佐したのが関東管領であり、上杉家が世襲した。この上杉家も山内家、扇谷（おおぎがやつ）家、犬懸（いぬがけ）家、越後上杉家の四家に分裂し、分裂した公方家を巻き込んで、複雑な動きを見せる。こうした有力な家の家臣の長として、家事の多くを束ねたのが家宰（かさい）である。有名なのが扇谷家の家宰、太田道灌である。この他に、武蔵国守護もいた。

また、室町時代には有名無実となったが、国司も存在した。国司は京にとどまり代官を派遣して国を治めた。この代官を目代（もくだい）というが、武蔵国目代として、登場してくるのが今回の主役大石氏である。南北朝時代には守護代として活躍した。

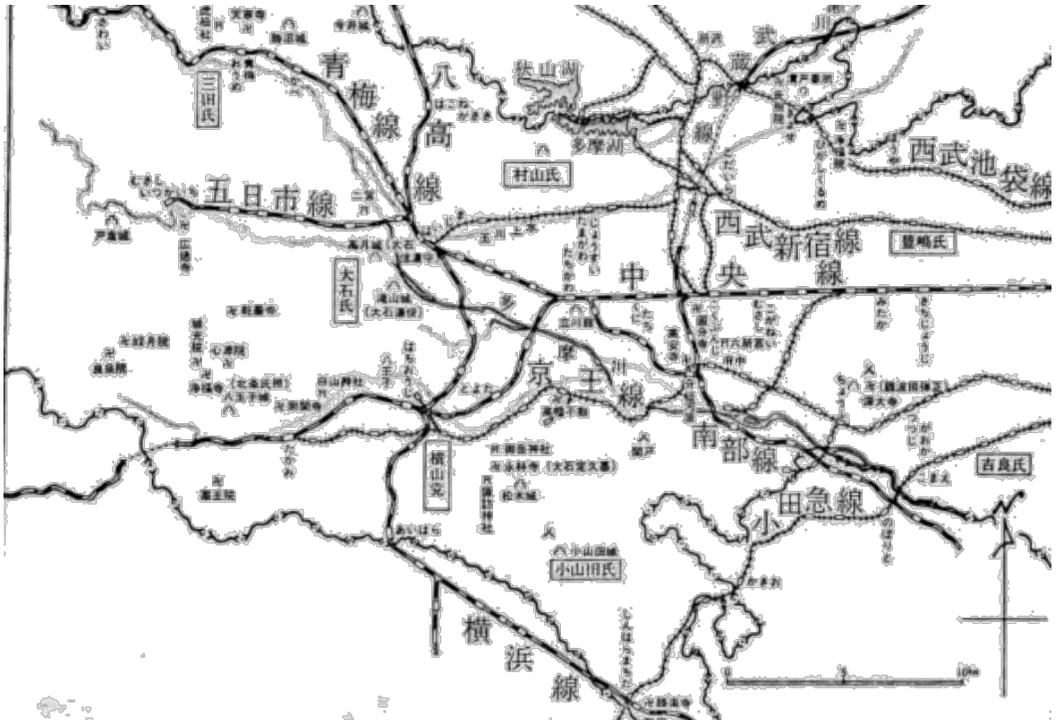
## ●公領・牧・荘園

初めての元号「大化」が用いられた翌年、大化二年（六四六）正月、大化の改新の詔が出された。その第一条が「公地公民制」である。すべての土地は国家（天皇）の土地となったが、この土地を公領また国衙（こくが）という。

武蔵の国には、公領として四つの官牧が設けられた。これが石川、由比（ゆい）、小川、立野の四牧である。平安時代になるとこれに、小野、秩父の牧が追加され六つになる。

この公地（公領）の中に荘園が成

立する。船木田荘、横山荘、小山田荘などである。荘園は権門勢家が領家となつて支配したが、武蔵では、武蔵武士が荘司となつてその荘園の実権を掌握した。この武士団を武蔵七党と呼ぶ。七党のひとつ横山党は小野氏の出で、横山荘を支配し、西党は船木田荘を支配した。



大石氏関係地図

# ① 下柚木の御嶽神社

下柚木一四八

勧請 大石遠江守

祭神 日本武尊

(やまとたけるのみこと)

中筒男命

(なかつつおのみこと)

社宝 御神体一体、

棟札六枚、神石五個、

創建 天文二年(一五三三)

三月二日

例祭 八月二十八日

滝山城の守護神を大石遠江守が勧請し社殿を造営したとの伝承がある。

元和三年(一六一七) 別当の光明

院が再建し、上・下柚木村の総鎮守

とし、相殿には住吉大神を奉斎する。

境内には天王社、金毘羅社、稲荷

社が祀られている。



御嶽神社



御嶽神社鳥居

## ● 御嶽神社のスタジイ

野猿街道の殿ヶ谷戸(旧道に入る付近)から南陽台に続く細い急坂を登りきると御嶽神社に至る。

境内には、斜めに倒れかけて根元から二本に分かれた状態の椎(スタジイ)の木がある。神木であり、八王子市の天然記念物に指定されている。左右の樹廻りは目通りで約三m、樹高約二十m。昭和六十一年(一九八六)の大雪で先が折れてしまったが、以前は現在の数倍あったという。このスタジイが神木になる以前は大きい松の木が神木であったが、台風で倒木した。代わって樹廻りの太い樹齢約四百年といわれる椎を神木にしたという。

神社境内は猿丸山(峠)ともいわれ社殿奥脇に大石定久が自刃した場所と伝えられる小さな祠が祀られている。



珍しい狛犬



スタジイの木



定久が自刃したという場所か

## ●猿丸山

大石定久は、天文十五年（一五四六）、由井源三（北条氏照）を養子にして滝山城を譲り、五日市戸倉城に引退したというが、寺の伝説によると、猿丸山で自刃し、そこに葬られたという。

現在、永林寺の墓地にある墓は、文化八年（一八一二）に建立したものである。最近になって境内裏手に定久の銅像が建てられた。

## ②金峰山永林寺

下 柚木四

宗派 曹洞宗

本尊 釋迦牟尼佛

寺宝 小田原彫大皿、御朱印箱

開山 一種長純大和尚

開基 大石源左衛門尉定久公

（滝山城主）

中興 北条陸奥守氏照公

（八王子城主）

開創 天文元年（一五三二）三月

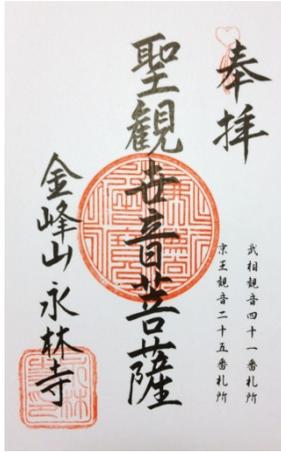
開創前は柚木城と称し、武相十郡太守、滝山城主大石源左衛門尉定久公が、家督を相続するまでの居城であった。その後叔父の一種長純大和尚に由木城を譲り、定久公は滝山城に入城した。

譲り受けた一種長純は開山当時、道俊院心月閣と称していた。天文十五年（一五四六）大石定久公の養子、八王子城主の北条氏照公が横地監物・中山勘解由を建築奉行として七堂伽藍の完備した大禅寺を建立した。

江湖会（僧侶千人）を営み、永鱗寺と改名した。

北条家滅亡後の天正十九年（一五九一）徳川家康公が巡拝した際に、木立に囲まれた林相の景観を目にして「名に負える永き林なり（評判どおり見事な林である）」と賞賛したことから「鱗」を「林」に改め、朱印十石の寺領を与えられ「永林寺」と改めたという。

「由木の赤門」と呼ばれる朱塗りの総門、徳川家の家紋三つ葉葵が施されている中雀門（ちゅうじゃくもん）などの奥に本堂が配置されている。十萬石の格式を有した寺で末寺も近隣に十数ヶ寺を擁する大寺であった。



## ● 寺の境内

「天明八年」と刻まれた石の門柱を経て総門がある。朱塗りの立派な門である。金峰山と額がかかっている。これをくぐり、十六羅漢を左右に見ながら山門へ。山門とは空門・無相門・無願門の、三解脱門のことをいう。これも朱塗りである。阿吽の金剛力士像を左右に見て門をくぐると、中雀門に至る。中雀門は、禅宗の寺にしかないという。この門をくぐると、寺の境内である。境内の正面には本堂（法堂）が建っている。内部は、「調布玉川絵図」で有名な、江戸時代の開戸村の名主相沢五流の杉板戸や、昭和八年生まれの洋画家、橋本豊治の描画した二百十枚の絵で装飾された格天井がある。

総門、山門、中雀門、本堂と一直線に配置されているのが、禅宗の伽藍（がらん）配置の特徴である。



山門



柚木の赤門（総門）



仁王像 吽形



仁王像 阿形

塔には仏舎利（仏の骨）が入っているのので、法隆寺のように塔を中心に伽藍が配置されるのだが、禅宗は中国宋代の仏教の教えなので、仏舎利はない。その代わり経典を研究する法堂が重視された。そのため塔がないのが普通である。しかし、永林寺には三重塔がある。禅宗の寺院では庭も重要である。京都龍安寺の石庭は有名であるが、永林寺の本堂裏の庭も見事である。

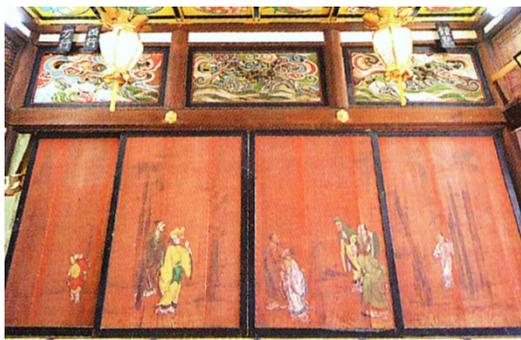
朱印十石、公卿格式十萬石を家康から安堵され、赤門の建設が許可された。江戸時代、公卿の格式は高いが、経済的には苦しかった。由木地区に十ヶ寺の末寺を有し、また天正十五年（一五八七）後陽成天皇の綸旨（りんじ）を受け、護国殿の勅額を賜っている。



本堂



中雀門



杉戸の襖絵



天井花鳥画



庭園



豊川殿と三重塔

## ● 岩船地蔵

本堂左側に岩船地蔵と、その覆(おおい)屋がある。享保四年(一七一九)に下野国岩舟(現栃木県下都賀郡岩舟町)を出発点として、地蔵が村から村へ送られ、地蔵が通った各地の村に「岩船地蔵」が建立されたという。その分布は甲州、新潟、三浦半島、房総まで広がっている。川を渡るときは安全祈願とか、三途の川を渡り、彼岸へ導く船とかといわれる。この下野国岩舟は、死者の魂の集まる霊場とされ、村々を練り歩いた記念として岩船地蔵が建立されたようである。この岩舟地蔵の広がりには、八代將軍吉宗の享保の改革に対する農民の抵抗が挙げられる。吉宗は米將軍と呼ばれたように、年貢取立ての改革を行った。凶作に関係なく、常に一定の利率でとる定免制である。この時期、農民の間では不満が爆発し、「はやり神」信仰が起こった。岩船地蔵もその名残りとい

えようか。永林寺の岩船地蔵も船の右側に、享保四年（一七一九）と年号が刻まれている。



岩舟地蔵

## ●大石定久公墓

下柚木四・永林寺境内

大石定久は高月城主大石定重の子として延徳三年（一四九一）三月二十三日に生まれている。父大石定重は、木曾義仲の十代目の子孫である。町田市にも木曾という地名があり、朝日將軍と呼ばれた義仲の一族と何

らかの関係がありそうだ。大石氏もまた、二科、諏訪といった信濃国の武士と姻戚関係があり、信濃出身の可能性が高い。

高月城は長祿二年（一四五八）に祖父の大石頭重信濃守が築城したので、定久はそこで生まれたのだろう。大石頭重↓大石定重↓大石定久と三代にわたり、関東管領上杉氏の守護代を勤めた。

大石定久は幼名を丑丸といい、由木と浄福寺に城をもち、大永七年（一五二七）家督を継いで滝山城主となった。この時、居館の由木城を叔父の一種長純に譲り、天文元年（一五三二）永麟寺として創建された。

定久は天文五年（一五三六）に、北条氏康と戦っているが、天文十五年（一五四六）氏康に降伏し、由木家に養子に入った由井源三こと北条氏照を養子に迎え、娘お比佐と結婚させた。自らは五日市の戸倉城に隠居したとされている。この後は永林寺で、亡くなった家臣の菩提を弔つ

ていたというが、天文十八年（一五四九）十月七日自刃して果てたと伝えられている。没後、猿丸峠の頂上に埋葬されたと言われている。頂上には手の平松という大樹があった。永林寺の定久公墓所の脇に、埋葬した時に建てられ、その後再度造られたと思われる角塔が置かれている。諸説であるが、定久公の遺骨は、文化十八年（一八一）永林寺二十五世住職によって、この地に改葬された。

定久公の墓石の両側には、家臣の五輪塔が連なっている。「天正二」と刻まれているものもあった。本能寺の変の八年も前に遡る。

定久公戒名「久彰院英巖道俊大居士」、妻は「定光院殿月嶂慧輪大禅定尼」笠付き角塔の墓石に二つ並んで彫られている。この墓は子孫の紀州藩士の片野氏によって建てられた。戦国の世で大名になれなかった大石氏は、徳川氏の庇護のもとで生きて行くしかなかった。



大石定久の墓

関係があるとの説もある。平安末期から鎌倉初期には横山党の（西党との説もある）一族由木氏が住んだという。付近に殿ヶ谷戸の地名も残っている。

南北朝時代には、多摩郡船木田荘に由木郷の名も見える。船木田荘の存在は中山白山神社出土の経筒の経巻が示している。また、船木田荘の領家東福寺の「東福寺文書」には、北朝の至徳二年（一三八五）の年貢算用状に平山分、宇津木郷分、豊田郷分、由比郷分、木切澤村分、由木郷分、大塚分、梅坪分、中野郷分とあり、船木田荘がいかに広がったかがわかる。船木田とは、船を造る杉の木を切り出した所から名付けられた。

明治となり、南多摩郡由木村となる。江戸時代以来の鑑水、中山、上柚木、下柚木、越野、堀之内、大沢、別所、松木、中野、大塚の十一ヶ村が合併して成立。ここに中世以来の由木の地名がよみがえった。江戸時

代は柚木といていた。

この由木村も東京オリンピックの年、昭和三十九年（一九六四）八月、激しい合併反対闘争の中、八王子に合併され由木の名は消えた。この由木郷の地に大石定久がどのようにして入り、由木氏から由木城を奪ったかは、定かでない。

城郭跡は、南に谷戸が開け、後ろは急な山になっているが、土塁の跡が僅かに残っているだけである。土塁の跡近くには池があり、水の補給場だったとの説もあるが不明。

## ● 由木城址

永林寺の奥に由木城址がある。一段高くコンクリートブロックで土盛りされ、大石定久公の銅像が立っている。

由木は由儀とも書く。ゆずの木に



柚木城址を望む

## ● 永林寺の紋章

永林寺の仏閣や大石氏の像、墓には、十六瓣葉菊、五三桐、三葵、三鱗、三銀杏、三頭巴の紋がみられる。大石氏の家紋は定かではないが、一説には對銀杏、または三星といわれている。備中松山大石氏系図によると、酢漿草（かたばみ）と記されている。紋章を見る限り永林寺が徳川家や天皇家から庇護を受けていたことがうかがえる。



十六瓣葉菊



三 鱗



三 葵



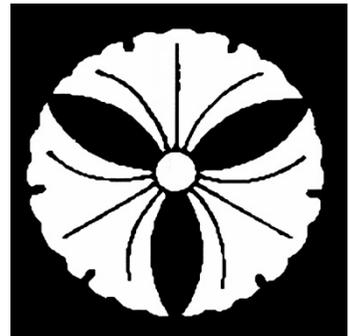
五 三 桐



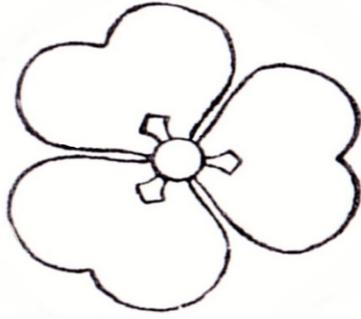
對 銀 杏



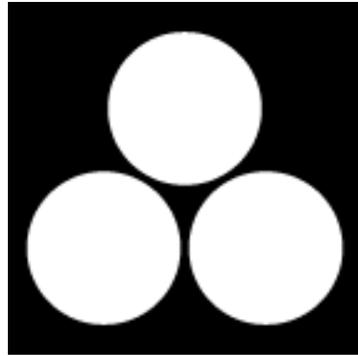
三頭右巴



三 銀 杏



酔漿草



三星

### ③吹王山玉泉寺

越野七二六

宗派 真言宗智山派

本尊 不動明王像

寺宝 砂ずり絵画

十六羅漢図等板戸四十四枚。

板仏六面

狩野派高麗宗山源景則画。

開基 賢海

開創 永徳三年（一三八三）

開山は不明だが南北朝時代に開かれた。柚木地区では古いお寺である。

江戸時代の元禄年間に火災に遭ったが、良栄法印在世の折、土屋但馬守の寄進を得て元禄八年（一六九五）に本堂を再建、中興したと伝えられている。また、越野の地に建立された鎮守山王社（現在の日枝神社）の御朱印を拝領し別当をも兼ねていた。境内には寛政十年（一七九八）造立の宝篋印塔が一基あり、信州高遠の石工「團蔵」の銘がある。他にも相模丹沢の七沢石で加工されたと思

われる宝篋印塔があり、「寛政戊午」（一八一〇）と同じ「團蔵」の名が刻まれている。



玉泉寺門



玉泉寺



宝篋印塔



本 堂



梵 鐘

#### ④ 越野の日枝神社

越野七五〇

祭神 国常立尊

(くにのとこたちのみこと)

創建 天正十八年(一五九〇)

例祭 九月一日

越野にある吹上山の山上に鎮座しているが、明治十四年(一八八二)社殿を造営し、大正十二年(一九二三)二月に再建した。

境内には秋葉神社、八坂神社、宇賀大明神、白山大明神の四神が祀られ、樹令三百から四百年といわれる巨木の神木が目をひく。

別当は玉泉寺で、総社は滋賀県大津市の比叡山にある日吉大社である。山岳信仰の神社で、全国に四千社ほど祀られている。日吉(ひえ)とも書く。

八王子市内にも十数か所あり、小高い丘などに建てられ、山林や家内の安全などのために祀られている。



日枝神社



ご神木



奥宮



境内にある碑と手水鉢

## ⑤ 越野会館の

### 木造聖観音菩薩坐像

越野七二八

越野地区の集会所越野会館の中には、江戸時代「裳掛（もかけ）の観音」と呼ばれた木造聖観音菩薩坐像が祀られている。像高四十四・五cm、台座から宝冠頂までの総高八十九cm。十四世紀後半から鎌倉時代以後、鎌倉の地を中心に流行したこの観音菩薩の様式的特徴は、台座の連弁を越えて両側に長く垂らした袖と前面の裳裾（もすそ）にある。宗風の影響を受け、ふっくらとした顔つきに、下方を見つめた目は優しい印象を与える。

胎内に天正九年（一五八一）の造像銘があり、願主に小田野肥後守周重（ちかしげ）の墨書が見られ、八王子市指定有形文化財となっている。武相十三番聖観音札所でもある。

聖観音菩薩坐像は、永林寺末の福集山導儀寺にあったものだが、導儀

寺は明治初年廃寺になり、観音堂だけが残った。後に越野会館に移され安置されている観音菩薩坐像は、十二年に一度卯年に公開される。出所は不明であるが、大きな獅子頭もある。



越野会館



武相十三番聖観世音札所



獅子頭  
左：雌 右：雄



木造聖観音菩薩坐像  
(市指定有形文化財)

## ⑥富士見台公園

下柚木九〇五―三

大栗川中流南側の下柚木と松木の間  
に、自然を活かした富士見台公園が  
ある。以前、この付近では発掘調査  
が行われ、古代の遺跡が多数発見さ  
れた。

園内には、遺跡を復元した休憩所  
や見晴らし塔、トイレなどが完備さ  
れ、芝生の広場で一日過ごせる公園  
となっている。また、造成地内にあ  
ったと思われる祠や地蔵尊が公園入  
口に安置されている。



庭にある石仏と板碑



祠があったとされる場所



富士見台公園内



山王神社、明神宮社、諏訪神社が  
祀ってある祠



休憩所に復元されている古代住居跡



公園の展望台から見た越野・下柚木方面



安寧を見守る地蔵尊

## ⑦ 大石信濃守宗虎屋敷のサルスベリ

### サルスベリ

下柚木駐在所前の大栗川を渡ると向かい側の由木中学校に至る。大栗川沿いに「大石やかた公園」があり、この公園の裏手の丘陵に、市指定で天然記念物のサルスベリの木がある。周辺は吉田家の埋め墓と農地になっている。周りには五輪塔や宝篋印塔が立っているが年号は読めない。吉田家は大石宗虎の家臣といわれているが、主家の事は何も判らない。墓石によると大石宗虎の没年は元龜二年（一五七一）六月八日。信濃守。と読める。

大栗川の左岸には由木城址、右岸には大石宗虎屋敷跡がある。二つの居館が川をはさむ形で、由木を治めていたのではないか。このサルスベリの木は樹齢四百年で、宗虎屋敷の庭木として植えられたという。当時、サルスベリは貴重な木だったといわれている。

さらに付近の農地を進むと江戸期に造られたと思われる三体の石仏がひっそりと立っている。右が地蔵尊、中が大乗妙典六十六部供養塔、左が庚申塔である。庚申塔には「享保三」と刻まれている。江戸時代この道を歩く人もあったのだろうか。



大石宗虎旧居跡のサルスベリ



大石宗虎旧居近くの野仏



吉田家の墓

◎参考資料

- ・ 東京都の歴史 山川出版
- ・ 八王子辞典 かたくら書店
- ・ 歴史と浪漫の散歩道  
市教育委員会
- ・ 菊地先生レジュメ
- ・ とんとんむかしの会レジュメ
- ・ 埋蔵文化センターレジュメ
- ・ 要綱日本紋章学 沼田頼輔著
- ・ 八王子市史
- ・ 八王子寺院めぐり
- ・ 国土地理院地図
- ・ インターネット各ページ
- ・ 八王子市郷土資料館資料
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市観光マップ
- ・ 昭文社

メモ